

## 特定非営利活動法人

## 日本雲南聯誼協会

【本部】〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1

JR東急目黒ビル7F

Tel. (03) 5435-5977 Fax. (03) 5435-5978

Email:yunnan@jyfa.org

URL:<http://www.jyfa.org/>

【雲南事務局】雲南省昆明市人民東路289号集大広場20階2011室

Tel. +86-871-331468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野惠蘭

印刷協力 梅日経印刷 梅技術評論社



## 彩雲の南

会報

第21号

発行日 2006年(平成18年)10月10日

## 特定非営利活動法人

## 日本雲南聯誼協会

【本部】〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1

JR東急目黒ビル7F

Tel. (03) 5435-5977 Fax. (03) 5435-5978

Email:yunnan@jyfa.org

URL:<http://www.jyfa.org/>

【雲南事務局】雲南省昆明市人民東路289号集大広場20階2011室

Tel. +86-871-331468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野惠蘭

印刷協力 梅日経印刷 梅技術評論社

## 少数民族地域に根ざした学校建設支援



一雲南省の地図  
赤い旗は今回の視察で訪れた  
4つの地域です

1

2

3

4

写真1) 昭通木杆小学校の校舎 ぼろぼろの壁や屋根

写真2) 通慶州シャングリラ共卓小学校の抜けてしまった天井

写真3) 視察時は、雲南側からも関係者が大勢

出てきてくれます

写真4) 德欽とのある小学校で教科書を見せて

## 雲南4地域を行くみのり

日本・雲南聯誼協会の次年度小学校建設支援候補地を視察するため、昆明事務局の林と東京事務局の七田が雲南省各地を訪問しました。10日間の日程で訪れた地域は迪慶チベット族自治州、怒江リス族自治州、協会として初めての視察となる雲南省東北部の昭通市、中西部の保山市の4地域。訪問した学校は、すでに支援が終わった学校も含め、12校。内線を6度乗り継ぎ、車の走行距離は3000キロにも達しました。あわただしい日程ではありましたが、各地域の状況を比較しながら視察できる、貴重な体験となりました。



徳欽の険しい  
岩場の道を四  
駆が走ります  
途中で尖った  
岩でタイヤが  
パンクするア  
クシデントも

かるということでした。

学校の資料や写真上では見えてこない生の子どもたちの学校環境や生活風景を見たことで、雲南省には今でも協会の支援が必要な場所はまだ沢山ある、と実感せすにはいられませんでした。



粗末な校舎の中で輝く先生たち

毎回行っている視察中の教員インタビューや建設済みの学校教員へのアンケート調査を通じて、改めて学校教員の存在の大さ、重要性を感じました。協会支援第2、3校目の吉能小学校では完成から4年たった今でも先生の努力あって管理がきちんと行き届いており、教室や先生の宿舎はきれいに掃除され資料も整然としていました。その様子は私たちを安心させ、同時に一行の背筋をピンと伸ばしてくれました。このような先生が学校にいる限り小学校は安泰だね、と皆で話しながら学校を後にしました。保山の小学校では、先生が自身の少ない給料の中から、貧しい家庭の子どもたちの雑費を払うことがよくあると聞きました。校舎はどんなに粗末でもそこには必ず地元のために一生懸命尽くす先生の姿がありました。雲南では卒業生が母校に戻ってきて先生になることが多いのも、こうした尊敬できる立派な先生が多いからなのでしょう。



## 地元に根ざし恵づく支援を目指して

今回、視察に当たっては多くの方たちに本当にお世話をなりました。訪れた各地域では現地の教育局をはじめ政府関係の方や先生、村人や子供たちが常に歓迎してくれ、そして熱心に同行、説明をしてくださいました。それだけ協会に対する期待も大きいのでしょうか。それは、初等教育に対して高い関心と期待を抱き重視していることの表れでもあります。協会の学校建設は7年目に入りシステムも確立してきています。今後も地道な視察活動を重ね、必要とされる地域へ、地域に根ざした適切な支援をしていくこと、建設後も管理が行き届くよう見守り応援することが協会の役割だと考えています。

(東京事務局 七田怜)

奥地にある木杆小学校の花苗族は驚くべき  
素晴らしい音楽を信仰してくれば  
ました



## 足を運んで初めて見える学校環境の現状

今回の視察で小学校をまわり一番強く感じたことは、「実際に現場を視察しないと本当のことは分からぬ」という、当たり前に思えるごく単純なことでした。雲南省内でも最貧困地域となっている昭通の木杆小学校では、校舎は教室1部屋のみ、木造屋根が壊れそこをビニールシートで覆ってあり、電気もガラスもなく、地面そのままの床はシートと降る雨で水浸しになっていました。こんな状況でどうやって授業をしているのだろう? 信じられないような気持ちになりました。

怒江の小学校では冬には雪下になり降雪があるにもかかわらず、閉門だらけの狭い4畳ほどの宿舎に、薄い布団1枚で6、7人の児童が寝泊まりするといいます。

また、雲南省は土地の94%が山地です。児童は登下校の度に山の道なき道を轡たり登ったりしなければならない地域がほとんどで、一番遠い児童は往復8時間もか

かれていた  
学校の様子を説明



整理整頓の行き届いた  
吉能小学校  
先生の部屋

上左) 德欽のこどもたち 右) 吉能小学校掲示物  
下左) 木杆小学校の村 右) 昭通のこどもたち 成績表です

北原茂実理事のご寄附による協会支援第12校目

### 建設支援金贈呈式



8月24日、初鹿野理事長と、北原茂実理事はじめ協会関係者が雲南省司法庁を訪問し、協会支援第12校目となる思茅地区曼等鄉菜戸小学校の建設支援金贈呈式に出席しました。

今年2月、初鹿野理事長と協会スタッフが、司法庁長官ら司法庁と共に思茅地区曼等鄉菜戸小学校を視察。その後、協会第12校目となる菜戸小学校への当協会の北原茂実理事の支援による建設が決まりました。司法庁ではこれまでに現地でも募金を集め、現地視察を重ね、菜戸小学校の建設に向け準備を進めていました。

贈呈式では、司法庁長官自身も少数民族の農村から進学できた数少ない人材であることから、当協会の少数民族の教育への支援に対し、心からの感謝の言葉が述べられました。

無事に第12校目建設への準備が整い、建設工事も始まり、来年5月の完成が早くも待ち遠しいですね。

### 第6回 定時総会



八王子の会場に駆けつけてくださった皆様で集合写真を一枚

### 初鹿野理事長 北京大学留学生の老師となる ~未来の日中親善大使を育てるための勉強会~

6月13日、笹川平和財団の奨学生として中国北京大学から早稲田大学大学院(アジア太平洋研究科等)に留学している学生たちの勉強会が開催され、初鹿野理事長が講師として招かれました。

日本財団大野修一常務理事からの、「日本・雲南聯誼協会は日本で一番、日中友好関係に力を尽くし、活発に活動している団体です」という、うれしい紹介から勉強会が始まりました。初鹿野理事長は協会の活動とその理念についてパワーポイントを使って講義を行い、これまで教育支援を通じて育ってきた両国の友好について語りました。また、日中二つの祖国を持つ初鹿野理事長は、自分自身がどのような視野を持って両国を見ているか、学生たちに様々な例を挙げてわかりやすく話しました。国際関係について学び、初鹿野理事長と同じく、中国人として日本を訪れた学生たちは、熱心に話に聞き入り、後半は様々な質問・意見を率直に交わしました。



日中両国を祖国に持つ初鹿野理事長の話は、留学生に大きな説得力があったよう



留学生たちが抱いた日本の印象は、街が整然としている、仕事に勤勉、などがあがりました。輸になって

日本・雲南聯誼協会の活動の軸で、25の少数民族に小学校を建設する「50の小学校プロジェクト」。今回の視察後、必要性とその他条件を検討した結果、新たな支援校を決定しました! 第13・14校目は、雲南省西北部の迪慶チベット族自治州シングリラ県「卓卓小学校」「阿央谷小学校」。アジア教育友好協会の支援により、建設が決定いたしました。桃源郷を表すシャングリラという地名に相応しい、草原と山脈の連なる、壮大な自然の広がる地域です。こちらは10月に着工が行われ、来年の3月に完成予定。第15校目は雲南省東北部、雲南省の中でも最貧困地である昭通市「木杆林区小学校」。今回の視察後、次年度での支援を考えていましたが、9月はじめに小学校の地域付近で大地震が発生し校舎が倒壊してしまったとの情報があり、急速、今年度の支援が決定しました。新しい校舎は、西部ガス株式会社の支援により建設されます。同じく10月に着工、来年5月に完成予定です。

### 桃源郷シャングリラと最貧困地昭通に…

### 第13～15校目小学校建設支援決定!



木杆  
小学校  
花苗族の衣装をま  
と本  
た先生

#### ●第13校目・卓卓小学校

- 名称: 卓卓小学校
- 住所: 迪慶州シャングリラ県小中甸
- 民族: 藏(チベット)族
- 児童数: 41 ■教員数: 2
- 地域の平均年収: 450 元



現在の校舎は屋根が抜けたり塗が崩れたりして危険。新校舎建設予定地は村と村の間で通学の利便性が上がります。

#### ●第14校目・阿央谷小学校

- 名称: 阿央谷小学校
- 住所: 昭通市大姚県木杆鎮林区
- 民族: 苗(ミャオ)族
- 児童数: 260 ■教員数: 10
- 地域の平均年収: 857 元



卓卓小学校と同様、チベット族の学校。子どもたちの増加に備え、校舎を増築します。お祭行事が多いのがチベット族の特徴です。

#### ●第15校目・木杆林区小学校

- 名称: 木杆林区小学校
- 住所: 昭通市大姚県木杆鎮林区
- 民族: 苗(ミャオ)族
- 児童数: 260 ■教員数: 10
- 地域の平均年収: 857 元



現在の校舎は屋根は破れ、床は地面そのままである。雨が降っていた視察時は教室内が水浸しでした。9月の地震によりこの校舎は崩れてしまったため、急遽今年度の支援を決定しました。

木杆小学校で子供の家を訪問し、インタビュー調査をしました

皆さん真剣に資料に目を通し  
質問や提案をくださいました



参加者一人ひとりからの自己紹介と協会への思いを語っていただきました!

去る6月24日、毎年恒例の日本・雲南聯誼協会第6回定時総会を八王子にて無事終了しました。

会場には、早い時間であったにもかかわらず、遠く長野県や神奈川県茅ヶ崎市から、会員、役員、顧問、事務局スタッフ、ボランティア、総勢25名の方々が駆けつけてくださいました。

杉谷隆志専務理事は、開会の挨拶として、もっと若い人たちが活躍する場を増やし、経験ある年配の方がサポートしてゆく必要があるという話をされました。

初鹿野理事長の挨拶では、これまで暖かいご支援をくださった方々への感謝の気持ちが述べられ、最近若者、学生のボランティアが増えていることを喜ばしいことだと話しました。次世代を担う彼らの活躍の場を作るのはNPOの重要な任務であると、熱く語りました。

議案の中では、東郷浩会員から寄付金についての意見が出されるなど、中身の濃い内容となりました。最後に、唐澤英安理事から閉会の挨拶で、総会を終えました。今年の総会では、お越し下さった会員、ボランティア、スタッフが一人ひとり自己紹介する時間もあり、その度に温かい拍手が会場に響きました。皆さんの協会に対する意気込みや、雲南への熱い思いがひしひしと伝わってくる一幕でした。ご出席くださった皆様、ありがとうございました。

【出席者(順不同)】初鹿野恵蘭理事長、杉谷隆志専務理事、中村有里子理事、初鹿野薫理事、遠藤功理事、大野修平理事、唐澤英安理事、桂正則理事、村松健兒監事、佃純誠監事、小山久子顧問、初鹿野仁様、糸山敏和様、岡本俊子様、森睦夫様、東郷浩様、真砂泉様、柴崎美保様、田中貞明様(協会会員)、能見様、小山敏太様、張萌様、歌川隆介様(協会会員兼ボランティア)、事務局スタッフ(狩野・七田)

勉強会は二時間にも及びましたが、互いにあってとても有意義なものとなりました。勉強会終了後は大野常務理事はじめ職員の方を含め、懇談会が開催されました。気楽な雰囲気の中で楽しい交流のひとときとなりました。

最後に、初鹿野理事長から日本財團へ「奨学生たちは学間に励むだけでなく、日本社会、日本国民についてもっと知りたい」と提案しました。両国にとってより良い社会を作りたまには、知識だけではなく心を育ててゆくことが大切です。大野常務理事はすぐにでも実行に移すとお返事してくださいました。来月にもその提案は実現され、きっと奨学生たちは協会事務局や、当協会と関連のある一般企業を訪問することが決定しました。また学生たちは当協会の活動や、両国のために力を尽くしていることをとても感激し、中国に帰っても当協会の活動に参加したいと話してくれました。

戦後60年たった今でも、日中間に厚い壁があることは否めません。これから、若い世代がどんどん活躍し伸びを深めて行ってくれることを願います。

今回、このような機会を設けてくださいました、日本財團の大野常務理事に感謝いたします。大野常務理事は協会の活動を高く評価してください、またご自身も日中友好に尽力しています。今後もまた、このような有意義な勉強会を定期的に開いてゆければと思っています。また準備等でお世話になった笹川平和財団の皆様、ありがとうございました。

参加者全員で記念撮影  
日本にいる間に、勉強以外の多くの「こども  
がんばれ! 未来の日中親善大使たち!」



## 第9校目禾甸小学校 フォローアップ事業始動!

これまで日本・雲南联谊協会は小学校校舎建設の支援を続けてきました。建設後の小学校では、どんな児童たちが日々どんなことを考えながら勉強しているのでしょうか。また、どうすれば建設後の小学校の確実な地元による運営を補助し見守ることができるのでしょうか。

協会では、今後、「建設後フォローアップ事業」を立ち上げ、建設後のケアを重視していく方針です。その第一陣として6月13日、4月に開校式を終えたばかりの支援第9校目禾甸小学校を訪問し、子どもたちへのインタビューをしてきました。同時に、日本からのお客様とのカレー／あやとりをテーマにした交流会も開催しました。

### フォローアップ事業その1

#### インタビュー調査

子どもたちが日々  
考えていることって  
なんだろう?



インタビューの様子

【質問内容】①一番好きな科目は? ②何をするのが好きですか? ③大きくなったら何をしたいですか? ④一番好きなもの(人)は何ですか? ⑤日本の子供達に聞きたいことはありますか?



李傑(男) 3年生(9歳) 白族

家族構成: 母親(37)/父親(37)/妹(2歳半)/祖父(61)/祖母(60)  
家庭は全員白族。家では中国語で話している。別に暮らすおじいさんとおばあさんは日本語で話す。お父さんはこの学校の6年生の先生。

①美術。絵を描くのが好きだから。②手で何かを作ったり、花を育てたり、小さい動物を飼うのが好き。動物はおじいさんとおばあさんの家で犬を飼ったことがあるよ。③大きくなったら世界的に有名な芸術家になりたい。④好きな人はお父さんと妹。宿題ができなかつたら良く教えてくれるし、歌も教えてくれるから、妹はかわいいし、なついて僕のことも良く気遣ってくれるんだ。一番好きなのは僕の猫と犬。猫は灰色と黄土色で、犬は黒い犬、「小黒」という名前。1番位の大きさ。⑤日本の子供達はどんな科目を勉強するの? 日本の子供は何歳で小学校に入るの? 日本の子供は毎日何ごはんを食べるの? 日本の子供は何を食べるの?

### ご支援に感謝いたします!

当協会会員で日本大学生物資源科学部教授の廣瀬一美さんが、協会支援の小学校児童たちのために文房具とバッグ、鉛筆削りを200セットご寄付くださいました。これらは10月の第10校目開校式ツアーリアル配布する予定です。同じく開校式にあわせて、会員の近藤鈴一さん、高田博光さんより、ボールと鉛筆のご寄付、支援金をいただきました。そのほかにも、会費と共に寄付を納めてくださる方々をはじめ、多くの会員・支援者の皆様から寄付金や子どもたちへのプレゼントを賜っています。

皆様が当協会にお寄せくださったプレゼントは大切に保管され、開校式や視察の際に子どもたちの手に渡ってゆきます。

温かいご支援のお気持ち、本当にありがとうございます!



上) 广瀬先生からの  
プレゼント  
左) 昆明女子中学で  
支援金を渡しました

### 北原脳神経外科病院

昆明医学院第一附属病院と合資病院設立で合意

### 盈华商投资西南

OBJECTS IN SOUTHWESTERN CHINA TO ASEAN

办...中...务...公...司...

盈华商投资西南

調印式が盛大に執り行われました

### 設立以来はじめての ボランティア会議

3連休の初日である9月16日(土)、東京事務局にて、協会設立以来、初めてとなるボランティア会議を開催し、8名のボランティアが集いました。

今回の会議は第1回ということでお互いや協会のことを良く知つてもいい結果を強めたいという目的がありました。協会のボランティア登録者は現在40名を超えており、職業や年齢層も様々です。イベントやウェブサイト翻訳、会報やダイレクトメール発送作業などで大きな力となって協会を支えているのはこのボランティアの方々です。

会議の後半では仮想のイベント企画を2グループに別れて提案するワークショップを行いました。実現に向けての具体的な企画書の内容を、宣伝方法、ボランティアの役割、写真展開催までのスケジュールに分けて考えました。短い時間でしたが、独創的なアイデアや、新鮮な発想が次々と飛び出し、企画書はあつという間に文字で埋まってゆきました。最後は両グループが、自分たちの企画書を発表。2つの全く違う企画が生まれ、そのどちらも、今にも実行に移せるほど完成度が高く、スタッフも大変驚きました。

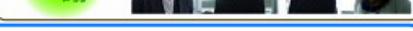
1人の力ではどうにもならないことも、仲間が集まることで実現が可能になります。今後もボランティア会議を続け、活動を盛り上げてゆきたいと思います。今回の題材になったイベント企画については、実際にボランティアの主導の下、来年の開催を目指して始動予定です。どんな写真展になるか、今から楽しみですね。



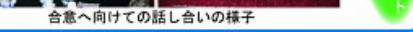
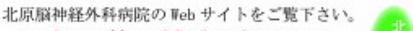
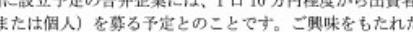
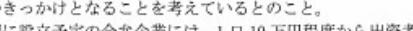
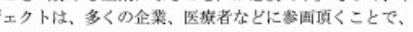
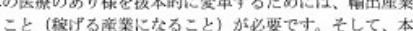
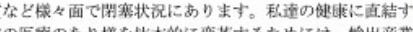
写真展の企画会議 楽しいアイデアが沢山生まれました



昔で作り上げた企画書(右)を発表をしました



謝謝!



フォローアップ事業その2  
あやとりや カレーで交流会

協会支援校のフォローアップ事業として、毎年交流会や運動会を開催していますが、今回は当協会法人会員・神戸のNPOしゃらく主催で行われたツアーチーで、当協会建設の第9校目の禾甸小学校との日本のカレーを作つて食べるというユニークな交流会が行われました。

6月13日、学校に到着した瞬間、小学校をあげての大歓迎を受けました。参加者はびっくりしながらも、喜びとワクワクした気持ちを盛り上げていきました。日本からの参加者は学校内の教員用厨房を借りてカレーを作りました。一羽丸ごとの鶏に驚いたり、慣れない中華包丁に戸惑つたりもしましたが、さすがは日本のお母さん、着々と仕上げていくのでした。完成後、子供たちと先生方と一緒に食事を楽しむことができました。日本のカレーは大好評で、子供達は「おいしい!」「この味、とてもすき!」と話してくれました。外国のお客さんと一緒に座って食事をするのが恥ずかしいのか、緊張した様子で食べていたのが印象的でした。食事を終ると、参加者は教室にあやとり、紙飛行機、折り紙、似顔絵、竹とんぼのコーナーを作り、「日本の遊び教室」を開催。子供たちはぞくぞくと教室に集まつて「何してるの?」「私にもやってみたい」と、興味津々。身動きができない教室は一杯に。楽しい交流会をすることができました。

李夢婷(女) 4年生(10歳) 白族

家族構成: 母親(34)/父親(35)/弟(5)/祖父(65)/祖母(60)

家庭は全員白族。おじいさんとおばあさんは別に家の上の方に住んでいる。

家では白族の言葉で話をしている。両親は大学院の大学進学を願っている。

①国語。国語は私達の読み力を伸ばしてくれるし、地球上の知識や生物の知識について沢山学ぶことができるから。②家庭。私が家事をすれば、両親がそんなに疲れないでいいから。③警察官になって人々の役に立つ。泥棒を捕まえたら、皆が安心して暮らせるよ。④一番好きなのは花。好きな人はおばあさん(外婆)。⑤勉強の状況はどんなかく、私達が勉強する内容はどう違うのか、着るものどう違うのか、聞いてみたい。それと、どのように生活しているのか知りたい。

李夢婷(女) 4年生(10歳) 白族

## 雲南を彩る 25の星たち

連載 第6回  
トールン(独龍)族

トールン族は、雲南の西北端、ミャンマーとの国境に近い独龍江および怒江沿いに住む。言葉はスー語に通じ、ジンボー語とも近い。族派は分かっていないが、唐の時代には、南詔、大理國に属し、元、明、清の時代は、麗江ナシ族に支配されていた。宗教はアニミズムで、50代以上の女性の中には、顔に入れ墨をしている人もいる。これは昔、他の民族がよく侵入してきたため、女性が身を守るためにしたとの言われている。農業と狩猟が中心で自然を崇拜し、万物に精靈が宿ることを信じる。伝承される創世神話があって、その一つの洪水伝説が良く知られる。突然の洪水で地上の人間が全滅したが二人の兄妹だけが運良く助かるという話で、それが歌に綴られている。トールン族の大部分は300メートルを超える高地で暮らしている。この地は雲南最後の秘境とも言われ、過酷な自然環境の中で生活する屈指の民族である。



トールン族の衣装を着た小学校の先生たち 手織りの布を木の棒で身体に止めた簡単なもの

### 『彩雲の南』に広告を掲載しませんか?

『彩雲の南』誌上にて御社の広告を掲載し、大きなアピールをしませんか?お預かりする広告費は、当協会の活動運営資金の大きなサポートとなります。ぜひ多くの方々からのご協力を待ちしております。お申込み・お問い合わせは協会東京事務局まで。

◆メリット① 広告掲載費によって社会貢献ができる!

◆メリット② 中国に関心のある読者へダイレクトに届く!

●NPO法人日本・雲南聯誼協会『彩雲の南』データ  
発行部数 5000部  
発行形態 5回/年  
版型 A2 2つ折(A3タブロイド版4頁)  
印刷形態 4色  
配布対象 協会会員・協会協力者・中国関連企業

## 協会の交流活動

●文化交流 ●医療交流 ●教育支援・交流 ●協会関連イベント

### 昆明新空港管理委員会が日本の空港を視察

6月21日～27日の日程で、雲南省昆明市副市長であり昆明新空港経済区管理委員会主任の王道興氏はじめ空港管理委員会関係者7名が来日し、関西国際空港・中部国際空港・羽田空港・成田国際空港を訪問、視察しました。昆明市は、2010年度に新国際空港設立を目指し、日本の先進的な空港施設の技術やサービスについて学ぶことを目的に今回の訪問・視察となり、協会がセッティングと同行・通訳をしました。

協会としては今まで繋がりのなかった空港関連の方々と連携を持てたこと、空港に関する知識を得られたことが大きな収穫でした。昆明に素晴らしい空港ができ、日本からの直通便が再開することを願っています。ご協力くださった国土交通省・農機総合研究所・羽田空港・成田空港・東京国際空港の担当者の方々に感謝いたします。

――訪問先空港ご対応くださった方一覧――  
【関西国際空港】代表取締役社長 村山敦様 / 副社長 平野忠邦様 / 執行役員 舟木浩一様 / 空港営業部長 住田弘之様 / 総務部長 伊藤松博様 / 通譯 松波裕  
【中部国際空港】運用本部運用管理部長 荒尾和史様 / 総務部マネージャー 永尾和也様 / 総務部アシスタントマネージャー 小島和義様 / 総務部国際業務担当 下條多香子様  
【羽田空港】広報室長 尾崎幹男様 / 広報室主幹 宮本裕司様 / 広報室主幹 鈴木敏道様 / その他不動産管理部の方等

【国土交通省】東京空港事務所総務課長 潘志重敏様 / 東京空港事務所管制保安部 三浦守夫様  
【成田国際空港】常務取締役 小堀陽史様 / 国際業務室室長 吉沢裕様 / 国際業務室マネージャー 小川文男様  
その他多くの方々にご協力をいただき、本当にありがとうございました!

### 昆明会員たちの親睦旅行

昆明在住の協会関係者を中心にして9月16日から一泊二日の親睦旅行会を開催しました。一行13名は小型バスに乗り込んで目的地のリゾート施設、撫仙湖畔の澄江「東風度暇村」へ向かいました。今回の旅行は、昆明に長期滞在している方や、新しく来られた方を含めて親交を深め、情報交換や生活上の相談など異国での生活が少しでも充実したものになる様にとの願いで協会昆明事務局が企画したものです。これから多くの方々が安心して春城の仲間に加わり、協会を通して素晴らしいコミュニティができるよう念願しています。



1泊2日という短い旅行でしたが、会員同士の絆を一層深めることができました



### ●雲南経済貿易懇談会で来日団と会員が交流



6月6日、雲南省華僑事務弁公室の楊光民副主任をはじめとする雲南省経済貿易訪問団7名が来日し、日本・雲南聯誼協会との共催で「雲南省経済文化懇談会」を開きました。当日、会場の目黒さつき会館には、初鹿野薰顧問、当協会法人会員・JR総連小田裕司委員長他7名、東京ベックス羽根田泰人社長、積水化学工業の劉哲雄さん、大陸共同メディア記者小笠原大八さんなど、総勢35名の方々が集まりました。

近年、雲南省はASEAN諸国との貿易往來として、ますます活躍の場を広げています。今回、スライドを交え、注目される雲南省の経済や文化について解説しました。質疑応答では、雲南貿易経済に關する質問から、今後の交流についての提案など、活発に意見が交わされました。

説明会後に当協会顧問で技術評論社・片岡巖社長主催で開かれた懇親会では、同社が出版したトンバ文字の書籍について話しました。その後、訪問団は北原脳神経外科病院を訪ね、野々山尚毅事務長の案内で病院を視察しました。訪問団は設備の整った病院を見て「以前から聞いていたが、想像していたよりさらに素晴らしい病院」としきりに感心していました。

会場手配・セッティングに協力してくださった会員のJR総連神立様、通訳をしてくださった積水化学工業の劉哲雄様、ありがとうございました。

### ●神奈川県保健福祉大学教授の雲南介護研修

8月17～31日の日程で、神奈川県より澤田順夫さん・信子さんご夫妻が雲南で少数民族の老人介護の現状と問題について調査・研修をされました。澤田信子さんは神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科教授として広く老人介護、社会福祉の実践と研究で活躍されています。ご主人の順夫さんは、奥様同様社会福祉士の資格をお持ちで、これまでにも中南米、中国少数民族の社会福祉の調査、実践を積んでこられました。



今回の研修では昆明、大理、麗江を訪問し、小学校での敬老教育、農村での老人介護、養老院等施設の状況などの調査を目的としていました。協会は、これから高齢化社会へ変わってゆく雲南省、そしてもっともっと元気になって欲しい日本で交流できればと、昆明の養老院訪問についての研修のお手伝いをさせていただきました。また、当協会支援第5校目の日中天真循小学校も訪問し、小学校での敬老教育や農村地の過疎化と高齢化についてのお話を伺いました。また、澤田ご夫妻から協会に寄付をいただきましたこと、心よりお礼申しあげます。



当協会法人会員であり支援者の原久子先生の瞑想講座ご案内です!

### 呼吸法と瞑想を通して真我に出会う— 【原久子の瞑想・呼吸法コース】

私たち人間が生活しているのは『三次元の世界』ですが、心は『異次元』の世界にあるのです。三次元で実現することは異次元(心の世界)でいったん思ったり、想像した結果なのです。これは心の法則なので、私たちが毎日頃、心の中で何を思い、どう感じるかによってその人の運命はプラスの方向にもマイナスの方向にも展開していくのです。つまり、感謝や喜びの心で生活をしている方は、感謝や喜びのある人生が展開され、不安や恐れ、不満の心で生活しているマイナスの方に翻弄されています。瞑想・呼吸法コースでは、毎回、原久子の講師と瞑想・呼吸法を行っています。正しい瞑想呼吸法を実践してくださることによってどなたでもアルファ波の脳波が出るようになっていきます。

【コースの内容】  
原久子講話・ストレッチ・ヒーリングテーマ別瞑想  
呼吸法・質疑応答他

※1回体験5000円

※日程等詳細についてお問い合わせ・お申込みは原アカデミー事務局まで

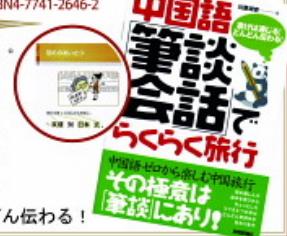
原アカデミー事務局  
167-0053  
東京都杉並区西荻南3-8-16-805  
Tel03-3335-1179  
Fax03-3335-3202  
Email:office@hara.ac  
http://www.hara.ac

### 日本雲南聯誼協会オススメBOOK

#### 中国語『筆談会話』でらくらく旅行

川原祥史著／B6判／144ページ

定価987円(税込) ISBN4-7741-2646-2



意外と通じる、中国での「筆談」。

発音が難しい中国語ですが、漢字を使つた筆談なら驚くほど伝わります。

本書は旅行に必要な基本フレーズを厳選し、日本人がすぐに使えるよう工夫した筆談を紹介しているので、ちょっと目を通しておくだけで、旅行が何倍も楽しめます。

書けば通じる!どんどん伝わる!